

パリエアショー2019の報告

1. ブースでの成果

・パリエアショーは国内関係者が一同に会する場であり、ブースでは国内関係者の来場が多く、現在の取組状況についての紹介とそれに対する意見交換は有意義であった。

主な来場者 経済産業省、大手重工関係者、国内中堅企業

日本航空宇宙工業会 会長、国内協力企業、他自治体 ほか多数

・説明内容としては、市戦略的複合共同工場と入居グループのNSCAを更に取りまとめる企業として新潟エアロスペース(株)を創設し、具体的な活動をスタートさせた事例とその活動内容を紹介。

・切削から表面処理と非破壊検査のスケジュールが立ち、共同受注の体制が整いつつあるなかで、更なる販路を拡大するため鍛造から切削まで一貫できる県内企業を紹介した。

・同エリアには東京都、中京地区がブース出展しており、各地域の有力企業との意見交換ができ、県内企業の技術については評価を得た。

・残念ながらブースへの外国企業来場者は少なく、大きな情報源とはならなかった。

・今回の展示ブースが東経連ビジネスセンターによるものであることから東北企業や同ビジネスセンターとの意見交換ができた。

・東北の航空機部品参入企業は未だ少なく、クラスターの核となる企業の存在も無いことから、本市共同工場を拠点とした連携について検討していく。

2. 海外企業ブースへの売り込み

・新潟エアロスペースを通じて、海外大手エンジンメーカーへの売り込みを行った。

① エンジンメーカー(フランス)へは、本市共同工場の入居企業の設備と今後とりまとめる新潟エアロスペースについて説明。

(回答) 今後のエンジン需用の拡大でサプライヤー不足が懸念されている。日本からの部品供給にも期待したいが実績がまだ少ない。行政支援が手厚いことは評価する。今後、継続的に情報交換し、調達の担当部門にも伝えていきたい。

②エンジンメーカー(ドイツ)へは、県内企業の鍛造技術をアピール。

(回答) 難削材(チタン・インコネル)の鍛造加工は難しい。サイズの大小にもよるが、調達先としては興味がある。詳細情報をもらいたい。

③エンジン部品メーカー(スペイン)には新潟エアロスペースの通じて今後の情報交換を行う。

その他、エアショーでは新潟エアロスペースの出資者である双日エアロスペースが各国の航空機部品メーカーと接触、各担当を通じて今後、新潟エアロスペースからの情報提供を行うものとする。

3. 小型モビリティ航空機について

- ・新潟空港の新たな活用策としてビジネスジェット及び小型モビリティ航空機の関連サービスの集積を検討しているが、海外で既に販売されている実機について会場で探してみた。
- ・価格提示がないのでその購入の手軽さは不明であるが、自動車の展示販売のような感覚でいくつか展示が見られた。(2人乗り軽飛行機が)
- ・会場で見ることができなかったが、ボーイング社、エアバス社と双方で「空飛ぶタクシー(自動車)」のモックアップ展示があったようだ。

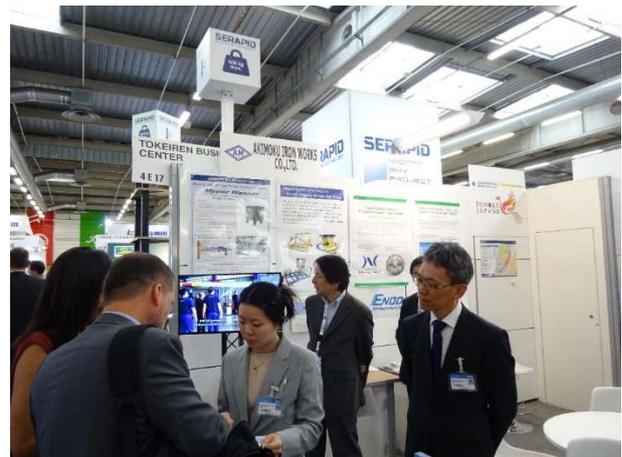
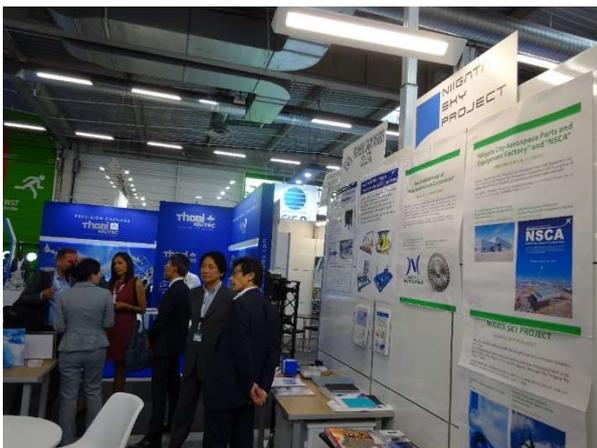
以上



三菱スペースジェット(新塗装)



川崎C-2輸送機(パリエアショー初展示)



NIIGATA SKY PROJECT展示風景



2人乗り軽飛行機(フランス製)



2人乗り軽飛行機 (隣は川崎 C-2)



2人乗り軽飛行機



HondaJet

【参考】

- 本市では2009年(平成21年)にS J A Cのブース内に一部出展(国内自治体初)したのを皮切りに
- 2010年 ファンボローエアショー単独出展(国内自治体初)
 - 2011年 パリエアショー単独出展(国内自治体初)
 - 2012年 UAVショー・ヨーロッパ(フランス・ボルドー)単独出展(アジアから初出展)
 - 2013年 パリエアショー単独出展
 - 2014年 ベルリンエアショー単独出展(東京都に次いで自治体2番目)
 - 2015年 パリエアショー単独出展
 - 2016年は米国とカナダへの個別商談訪問
 - 2017年はパリエアショーには職員派遣による市場調査
台湾(台中)への個別商談訪問と事業内容を変更

(報告者: 宮崎 博人)